



「バブルの崩壊」とは、どんな意味なの

景気がよくなり、資産がどんどん値上がりする

「バブル」は英語で「あわ」という意味ですが、お金のやりとりだけで、株や土地・建物などの資産の値段が、異常にふくれあがることをいいます。一見、資産の価値（評価額）が上がったように見えるのです。

バブルの時代に、日本は輸出品の値上がりをおさえると同時に、国内での売上げをふやすようにしました。このために、企業が生産設備などを整えやすいように、借りるお金の利息を安くするなどの対策をとりました。こうして、国内での消費は高まり、景気はどんどんよくなりました。

値上がりした土地や株が売れず、不況がくる

ところが、好景気でもうかったお金を、企業は株や土地・建物、絵画、宝石などの資産に注ぎこむようになりました。お金持ちや企業は、利息が安かったので銀行から借りました。土地や株は、買ってもすぐに転売すればもうかりました。このようなくり返しが行われたため、資産の異常なほどの値上がり、つまりバブルはふくれ上がっていったのです。

しかし、こんな状態が、いつまでも長続きするはずはありません。

利息が上がるうえ、値上がりした土地や株もそのうち売れなくなりました。おまけに国民が物を買う意欲をなくしたため、日本経済に不況が追っかけてきて、不景気になってしまったのです。このような状態を「バブルの崩壊」とよんでいるのです。

（監修・保岡 孝之）

